

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	青少年家庭課長 黒田利恵	電話番号	0852-22-5242
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	青少年を健やかに育む意識向上事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	青少年の健全育成に対する県民の意識が向上する	
事業概要	社会全体で青少年育成に取り組む意識を高める体制づくりを進めるため、青少年育成島根県民会議の諸活動等を通して、広く県民の理解を深め、学校や家庭、地域、関係機関・団体との連携を強化する。 「県民運動推進事業」：青少年育成県民運動を推進するための意識啓発や地域活動の支援を行うため、青少年育成島根県民会議に対して事業費等を補助する。 「広報啓発事業」：「島根県青少年の健全な育成に関する条例」の趣旨や内容、及び最近の青少年に係る諸問題を周知するため、県民に対して広報媒体を活用した広報活動を実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	青少年育成島根県民会議の会員数	目標値	1,050.0	1,070.0	1,090.0	1,110.0	人
	式・定義	青少年育成島根県民会議の会員及び賛助会員数	実績値	1,025.0				
				達成率	-	-	-	-
2	指標名	しまニッコ！（スマイル声かけ）県民運動推進者登録数（累計）	目標値	400.0	600.0	800.0	1,000.0	人
	式・定義	しまニッコ！（スマイル声かけ）県民運動サポーター登録者数	実績値	104.0				
				達成率	-	-	-	-

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	2,568	2,360
うち一般財源 (千円)	2,568	2,360

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・青少年育成島根県民会議の財政基盤強化（会員の拡充）に努めてきた。会員は前年と同数の172名、賛助会員は前年比99名増の853名となり、合計で前年比99名増の1,025名となった。会員は増加したが、個人の賛助会員の占める割合が多いため、依然、財政基盤が不安定である。  
 ・平成27年度より「しまニッコ！（スマイル声かけ）県民運動」を始めた。運動を県内に広げていくため、各地域で運動を推進する推進者の募集・登録を年度後半より行い、104名の登録者があった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

「しまニッコ！（スマイル声かけ）県民運動」を重点活動とし、具体的な取組を始めることができた。  
 ・市町村訪問による意見交換を行うことで、県民会議の活動への理解・協力や市町村民会議の活動・課題把握が進んだ。  
 ・県民総ぐるみによる青少年育成を推進するため、平成28年3月に「しまね青少年プラン（スサノオプラン）」の改定、「島根県青少年の健全な育成に関する条例」の一部改正を行った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・青少年育成島根県民会議の活動が十分周知されていない。
  - ・青少年育成活動に係る地域活動が停滞している。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・青少年育成に係る活動の認知度が低い。
  - ・青少年育成島根県民会議の活動の魅力不足と財政基盤の不安定さが見られる。
  - ・市町村や地域での組織的な取組が少ない。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・青少年育成に係る更なる広報啓発や「しまニッコ！（スマイル声かけ）県民運動」の推進が必要である。
  - ・青少年育成島根県民会議の活動の魅力化や認知度向上、財政基盤の強化が必要である。
  - ・市町村民会議や関係団体の取り組みへの支援が必要である。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・「しまニッコ！（スマイル声かけ）県民運動」を重点的に広報し、市町村や地域での取組を推進することで、県民総ぐるみで次代を担う青少年を育成していく気運を高める。  
 ・青少年育成島根県民会議の魅力化と認知度の向上、市町村や関係団体との連携、会員の拡充等の運営強化を図る。  
 ・青少年育成島根県民会議の取組を市町村民会議の活動へ運動させることで、市町村や地域での取組の活性化を図る。  
 ・「しまね青少年プラン（スサノオプラン）」の改定、「島根県青少年の健全な育成に関する条例」の一部改正に係る広報周知を図る。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）